

るじま多通信

創刊号

■編集・発行■

京都市都市計画局
まち再生・創造推進室

防災まちづくりをはじめよう！



路地やまちには魅力がいっぱい！

歴史都市京都の密集市街地・細街路

京都市は、大きな戦災に遭っていない歴史都市として、都心部及びその周縁を中心に古くからの町割が残り、細街路（幅員4m未満の道）が集中する木造密集市街地が広く分布しています。

これらの密集市街地や細街路には、町家が軒を連ねて立ち並び、昔ながらのコミュニティが息付くなど、京都らしい風情をたたえ、歴史都市京都の魅力となっている場所も数多くあります。

その一方で、地震等の災害時には建物等の倒壊により避難や救助に支障をきたすとともに、老朽化した木造建物が多いため火災時の延焼拡大につながるなど、都市防災上の大きな問題を抱えています。



防災まちづくりをはじめよう！

京都市では、歴史都市京都の特性を活かしつつ、安心・安全に住み続けられる災害に強いまちの実現に向けて、地域の防災力を活かし、専門家や事業者の方々との連携を図りながら、密集市街地・細街路における防災まちづくりに取り組んでいます。



密集市街地・細街路における防災まちづくり推進制度がスタートしました！

地域の主体的な防災まちづくり活動を継続的に進めるための「京都市密集市街地・細街路における防災まちづくり推進制度」が平成27年4月から始まりました。

この制度は、密集市街地の改善に取り組む地域組織やその組織が定めた方針・計画を市長が認定することで、地域・事業者・行政が方向性を共有しながら、持続的に路地やまちの安全向上を図ることを目的としています。

平成27年6月には、東山区六原学区と上京区仁和学区の地域組織を「防災まちづくり活動団体」として、各学区が策定した計画を「路地・まち防災まちづくり計画」として認定しました。

防災まちづくりって何するの？

「防災まちづくり」は、災害に強く、住みよいまちを実現するために行う地域と行政の協働によるまちづくりの取組です。

京都市では、平成 24 年度から「優先的に防災まちづくりを進める地区」(4 頁参照)を中心とした「防災まちづくり」の取組を進めています。

六原学区の主な取組

六原学区では、平成 24 年 8 月に自主防災会が中心となって『六原学区防災まちづくり会議』を立ち上げ、建築の専門家などを交えながら、**安心・安全で災害に強いまちづくり**に向けた取組を進めてきました。

この 3 年間で、「防災まちづくりマップ」の作成や住民アンケート調査、さらに袋路の 2 方向避難の確保といった具体的な防災まちづくりの対策を実施し、そうした取組を経て、この度、自分たちの計画として『**六原学区防災まちづくり計画**』を策定しました。また、これに合わせて組織を『**六原まちづくり委員会 防災まちづくり部会**』に改組しています。

地域からの声

3 年間の成果を防災まちづくり計画にまとめることができ、感慨深い思いです。認定が到達点ではなく、今後は**計画の実現に向けて**、また他の地域の道しるべとなるよう、まい進していきたいと思ひます。

六原まちづくり委員会 委員長 菅谷 幸弘さん



まちあるきで現状を確認！

道路の幅員や避難経路、建物の状況などを、実際に現地で歩きながら確認します。この結果を踏まえ、袋路の 2 方向避難の確保に向けた緊急避難扉の設置を協力依頼するなど具体的な対策に繋がっています。

緊急避難扉の設置が実現！

住民へのアンケート調査やワークショップ等で、袋路の 2 方向避難の必要性について多くの意見があり、対策を実施することになりました。

所有者の方のご理解・ご協力のもと、学区内の 2ヶ所で、路地奥に避難扉を設置。2 方向避難が可能となりました。

袋路が通りぬけられるようになったよ～！



防災まちづくりの主な流れ

防災まちづくりは、密集市街地の改善を目指し、取組を進めています。まちの目標や将来像、それに向けた対策のあり方等を示した「防災まちづくり計画」の策定も取組のひとつです。

1 年目

- ・組織・体制づくり
- ・まちあるきにより地域の課題を把握、共有

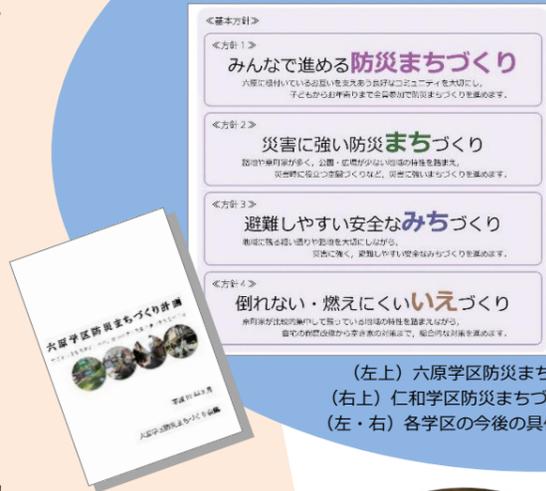
2 年目

- ・課題を共有するための防災マップ作成
- ・住民同士で意見交換しながら対策検討
- ・課題解決のためのまちづくりの方針検討

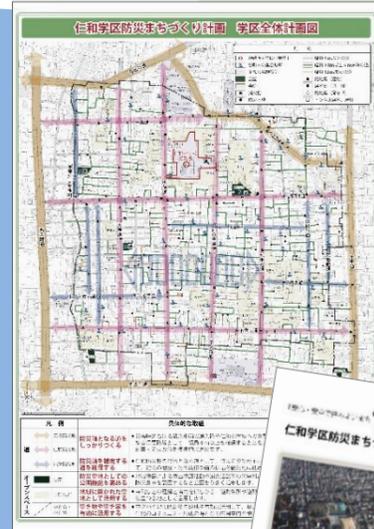
3 年目

- ・「防災まちづくり計画」の検討・策定

「地域の活動団体」と「防災まちづくりの計画」を認定しました！



(左上) 六原学区防災まちづくり計画の基本方針
(右上) 仁和学区防災まちづくり計画 学区全体計画図
(左・右) 各学区の今後の具体的な計画をまとめた冊子



地域からの声



仁和学区防災まちづくり協議会 会長 上岡 修さん

まちあるき、ワークショップ、住民アンケートや協議を重ねて、「仁和学区防災まちづくり計画」を作成しました。この「計画」を基に、更なる「安心・安全のまち 仁和」を目指します！



地域住民への PR 活動も行い 防災意識を高めました！

地域のイベント「仁和まつり」で『防災まちづくりコーナー』を設置しました。これまでの防災まちづくりの取組を紹介するとともに、住まいの耐震化の仕組みがわかる模型など、防災まちづくりについて楽しく学んでいただける内容です。大人から子供までたくさんの方が訪れ、防災まちづくりの PR となりました。

毎月の定例会議で計画を検討！

平成 24 年 12 月の第 1 回会合以降、概ね月に 1 回のペースで開催し、まちあるき等の結果を踏まえ、短期・中長期的視点からの対策方法や、地域の方との関わりを含めた対策の進め方などを検討し、防災まちづくりの取組を着実に進めてきました。

東山区六原学区と上京区仁和学区では、他の地区に先駆け、平成 24 年度から取組を開始し、3 年間の取組の成果として「防災まちづくり計画」を策定しました。

2 学区のこれまでの取組を紹介します。きっと防災まちづくりの具体的な活動が見えてくるはずです。

仁和学区の主な取組

仁和学区では、「**安心・安全で住みよいまち仁和**」をスローガンに、平成 24 年 11 月に『**仁和学区防災まちづくり協議会**』を立ち上げました。

以降、協議会が中心となって、京都市や専門家と連携しながら、防災まちづくりの取組を進めています。

まちあるきやアンケートで住民の方々からも意見をいただき、「防災まちづくりマップ」の作成や、袋路奥への避難扉の設置など、具体的な対策にも取り組んできました。それらの取組を経て、この度、『**仁和学区防災まちづくり計画**』を取りまとめました。

認定式を執り行いました！

平成 27 年 6 月 30 日に、「防災まちづくり活動団体」「路地・まち防災まちづくり計画」の初認定を記念し、認定式を執り行いました。今回認定された六原学区と仁和学区では、これから計画の実現に向け、引き続き行政との連携のもと、さらなる取組を続けていきます。

4 年目～ 取組はまだまだつづく！

- ・計画実現に向けた継続的な取組の実践

計画は作って終わりではなく 実現に向けたスタートです！





ぶくろっじいの マチづくり マメちし

Vol. 1 密集市街地って？

■密集市街地って？

古い木造住宅や細街路が密集し、災害時に火事が広がる、避難経路が塞がるなどのおそれがある地区のことをいい、木造住宅の建て詰まり状況のほか、地震時等の火災の燃え広がりやすさ、避難のしにくさによって判断されます。

■優先的に防災まちづくりを進める地区

全国共通の指標による密集市街地の中から、細街路の分布状況等の京都市の特性を踏まえた指標等を加味して、「優先的に防災まちづくりを進める地区」を定めています。

これらの地区では、住民と行政が一体となり、事業者の協力を得ながら対策を進めます。

■密集市街地のよいところ！

京町家が立ち並ぶなど、その佇まいが京都らしい風情を醸し出しているところも多く、歴史都市京都の魅力でもあります。また、狭い道だからこそ生まれるヒューマンスケールの空間は、濃やかなコミュニティを培ってきました。

このように京都の防災まちづくりは、密集市街地や細街路のよいところを活かしながら取り組んでいます。

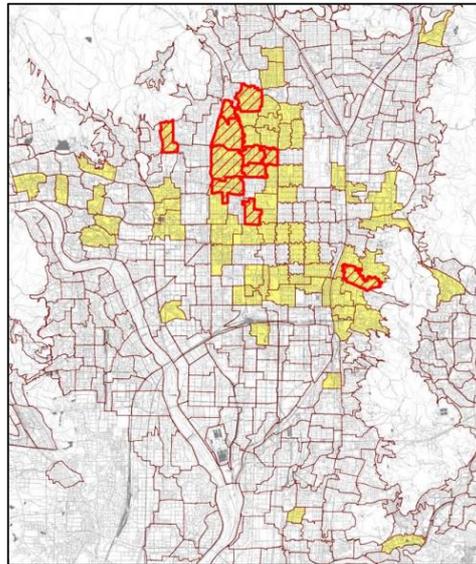


図 京都市の密集市街地
色のついた部分は全国指標の密集市街地、斜線部は「優先的に防災まちづくりを進める地区」。

路地

自慢

わがまちわが路地

Vol.1 昭和小路(東山区)

防災まちづくりの視点から、京都の路地を紹介します。今回は、「路地・まち防災まちづくり計画」の認定を受けた六原学区の路地「昭和小路」です。

五条通から六波羅蜜寺へ向かう路地の一つ、「昭和小路」。約 2.7m 幅の細い道と建ち並ぶ京町家のスケール感がちょうどよく、昔ながらの雰囲気が懐かしい路地です。

一方、防災上は、道幅が狭く、住宅が密集して延焼の危険性が高いといった課題があります。通常 4m 未満の道路の場合、建物の建替え時に敷地を後退しなければいけません。そうすると敷地が極端に小さくなってしまったり、また路地の持つスケール感や雰囲気が損なわれてしまいます。

そこで、昭和小路では「路地のある町並みを再生するための道路指定制度」（3 項道路の指定）を活用しました。これにより、道幅は現状とほぼ同じ 2.7m のまま建替え等ができるので、将来的に建替え等がされる時にも、路地の雰囲気を維持することができます。

昭和小路は古くから残る町並みが観光スポットにもなっている一方、伝統的に火災に弱い点が課題で、約半世紀に渡り「火の用心」の夜回りをしてきました。

魅力ある景観を残しながら災害に強いまちづくりへの第一歩として、今回の取組が実現しました。今後も地区計画策定も視野に入れ、活動を継続していきます！



昭和小路の住民
吉川哲夫さん



図 昭和小路の町並み
約 2.7m 幅の道の両側に、京町家が連なる。

このように京都市では、京都らしい町並みを大切にしながら防災まちづくりを進められるよう、支援する仕組みを用意しています。

<お問合せ・ご相談はこちらまで>

京都市都市計画局 まち再生・創造推進室 (密集市街地・細街路対策担当)

TEL 075-222-3503 FAX 075-222-3478

■京都市印刷物登録

第 274416 号

平成 27 年 8 月発行



この印刷物が不要になれば「雑み」として古紙回収等へ!